

## 本時のねらい

くまに親切にされたおおかみの変容を通して、意地悪をしたときよりも、親切にしたときの方がずっと気持ちがいいことに気づき、様々な人々との関わりの中から相手の考えや気持ちに気づき、相手のことを考え、優しく接しようとする道徳的心情を育てる。

## 本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

一人ひとりの考えをムーブノートの「ひろば」に送ることで、友だちの考えを見て、自分の考えと比べることができる。

## 活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・Chromebook
- ・電子黒板
- ・デジタル教科書
- ・ミライシード（ムーブノート）

## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (5分)	○今日は「はしの うえの おおかみ」という資料を学習することを伝える。	・デジタル教科書の中にある動画を電子黒板に映し、「はしの うえの おおかみ」の内容の理解を促す。
展開 (30分)	○登場人物を、大きさを確認しながらたしかめる。 ○おおかみは、なぜ「こら、こら、もどれ、もどれ。」と言って、うさぎやきつねを追い返したのかを考える。 ○くまに出会ったときのおおかみの気持ちを考える。 ○くまの優しさから、親切にすることの大切さに気づいたおおかみの気持ちを考える。 ○うさぎをそっとおろしたとき、前よりずっといい気持ちだったのかを考え、ムーブノートに入力し、ひろばに送る。	・電子黒板に挿絵を映し、おおかみの表情を捉えやすくする。 ・くまの後ろ姿を見ているおおかみの挿絵を電子黒板に映すことにより、2つのおおかみの表情の違いがわかるようにする。
まとめ (10分)	○親切なことをしたおおかみは、どんなことを思っていたのかを考え、カードに入力して「ひろば」に送る。 ○「ひろば」に提出された他者の考えを読む。	・ムーブノートを使ったことで友だちの意見を素早く見ることができ、自分の考えを深めたり違う意見に気づいたりできる。

## 1人1台端末を活用した活動の様子



写真1：電子黒板に話の動画を映している場面



写真2：自分の考えを手書き入力している場面



写真3：みんなの考えを「ひろば」で見ている場面

## 児童生徒の反応や変容

・くり返し、ムーブノートに文章を入力することで、手書き入力が速くできるようになり、書く量が少しずつ増えてきた。考えを共有する経験が増えたことにあわせて、主人公の心情を捉え、考えや気持ちをより多く書けるようになってきた。

・発表の場面が多くない児童の考えも、「ひろば」に送ることで、クラス全員が見られるようになり、道徳的な心情も高まったように思う。また、他者の考えにうなずいたりしながら友達の考えを読んでいる児童が増えた。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

ムーブノートで書く活動をくり返していく中で、徐々に自分の考えや思いをたくさん書くことができる児童が増えた。友だちの考えを「ひろば」で共有することで、次時で書く量が増えたり、自分の考えを広げたりすることにもつながっている。また、普段発言の少ない児童も自分の考えを発表することで、自己有用感が高まったと感じている。